

カタールを語る


 よしむら かずなり
 吉村 和就

 (グローバルウオータ・ジャパン代表)
 (国連テクニカルアドバイザー)
 麻布大学客員教授

日中の気温は摂氏四十八度、今、中東のカタールのホテルでこの原稿を書いている。カタールはとにかく不思議な国である。カタールはサウジアラビアの南から百六十kmほどペルシア湾に突き出した国である。国土(秋田県の面積と同じ)の大半は不毛な砂漠が広がっている。オスマン帝国が衰退後、一九一六年英国の保護下に置かれ、英国の承認なくして諸外国との交渉ができなかった。外国勢(アラブ諸国も含め)からの侵攻に対し、一手に英国が防衛していた。

一九四〇年代に石油が発見される前までは漁業と天然真珠採りが、唯一の産業であった。しかし日本養殖真珠(御本幸吉)が世界に出回るとカタールの天然真珠産業は衰退した。現在は石油と天然ガスに依存する経済体制で、外貨を稼いでいるのは石油、天然ガス、その関連製品である。GDPは世界最高レベルの十億ドルであり、一人当たりのGDPは世

界第三位である。その産業を支えているのは、自国民の数より多い外国人労働者(インド、パキスタン、イラン人など)である。カタールの人口は約百六十万であるが、純粹のカタール人は約二割である。

税金の無い国カタール

石油が発見され急に金持ちになった国であり、所得税や消費税はなく、カタール人であれば、保険医療費、学費、水道、電気代も無料である。大学を卒業すると国から土地を与えられ、カタール人同士が結婚すると国から家がプレゼントされる。事業を起こすときは国から二千八百万円まで無利子で借りられる。海外に留学するときは国から補助金が出る。カタール人であれば学歴に関係なく国から職を与えられるため、努力する必要がない、失業率は〇・三%。伝統的に男性が少なく、奥さんは三人までOKらしい。結婚年齢が八〇年代は二十歳であったが、最近は二十四歳と上昇している。また女性の社会活動を認めているアラブ諸国としては珍しい国である。それにしても日本と大違いである。物価が安く、コーラ一本が1カタールリアル(約三十円)、ハイオクのカソリンは二十円・リットルである。しかしながら娯楽がなく、世界旅ガイドなどでは「カタールは世界で一番屈辱な国」といわれたが、最近では欧米型のショッピングセンターも増えているようだが多くは期待できない。あくせく働き、しっかりと税金を取られる日本人から見ると理想郷のように見えるが、国のあり方を考えさせられる国である。若者の最大の娯楽は、世界の高級車や大排気量の四駆で、砂漠を疾走することらしい。しかし最近、政府は若者の教育の為に、ド

ーハ郊外に世界的な大学とタイアップして総合大学設立や、雇用促進のため国際科学研究センターや国際会議場を次々と建設している。

日本の技術が支えたカタールの繁栄

カタールでも他の産油国同様に原油やガスが発見されたが、第二次世界大戦が始まり、本格的に石油開発が行われたのが一九五〇年代、オイルメジャーによるものであった。日本のエンジニアリング会社は当初、欧米の傘下で石油精製装置の設計や施工を行っていたが、持ち前の粘りと向上心で世界最高の流動式接触分解装置などを開発した。

日本のエンジニアリング会社（日揮、千代田化工建設、東洋エンジニアリング）が高く評価される理由は、欧米エンジニアリングメーカーに注文すると納期遅れや、途中での値上げ交渉が頻発するのに対し、日本のエンジニアリングメーカーは、納期を守る、値上げ交渉をしない、つまり信頼性と信頼感があるからだと言われている。決められたことは最後までやり抜く日本の魂である。

中東諸国から石油が出て、多くのオイルメジャーは産出量の多いサウジアラビア、イラン、アラブ首長国連邦に群がったが、カタールに最初に注目したのは、日本であった。

中東諸国に比べカタールの原油埋蔵量は少ないとは言え、原油埋蔵量は百五十億バレル、天然ガスは八百兆立方フィートである。カタールに積極的に LNG（液化天然ガス）事業を持ちかけたのが日本の千代田化工建設であった。欧米エンジニアリングメーカーからも多くの働きかけがあったが、日本側の提案は、中部電力が、カタールで生産した LNG を

買い取るオプション付きであり、これがエミール（王族）の心を捉えた。一九九六年から九八年まで千代田化工建設は、同国初の LNG プラント（三百万トン・年×3系列）を完成させ、カタール国の経済発展に大きく寄与した。石油ガスが同国の GDP の五〇%を占め、これが輸出の八五%、政府収入の七〇%を占めるまでになった。カタールの経済発展に尽くしてくれた日本人への尊敬の念が高く、親日家も多い。今回の東日本大震災へのお見舞いとして、カタール政府は、四月十六日、日本国内の電力不足の影響を緩和するため、カタール国営ガス会社を通じ四百万トンの LNG（日本の総輸入量の六%）の追加供給枠を決定した。もちろんカタール政府は「日本は長年取引を続けている大切な顧客」とも明言している。さらに四月二十八日カタール政府は「東日本被災地の病院や学校の復旧・復興支援」として約八十億円の義捐金の拠出を日本政府に伝えた。この額は、世界七十六カ国からの支援総額（約七十億円、四月末時点）を上回るものであった。このようにカタールは、自国の繁栄の井戸を掘ってくれた日本人を救おうと最大限の努力をしてきたが、このニュース、日本のマスコミでは大きな扱いにならなかった、本当に残念である。

カタールの水問題

年間降雨量は平均五十ミリ（日本は千八百ミリ）で数カ月は雨が降らない季節が続く。従って地下水がほとんど無いために、使われているのは海水淡水化で得られる水である。海水淡水化、伝統的に熱方式である多段フラッシュ法（MSF）が多く使われていたが、老朽化と多消費エネルギー問題で、多重効用缶（MED）方式や、日本が誇る逆浸透膜方

式（RO膜）方式に変わりつつある。しかし水道代が無料の為、漏水率が三五〜四〇%あるが、ほとんど気にしていない、また一人当たりの水使用量も世界で最大級（六百七十五リットル・日・人）である。下水道の普及率はドーハ市内で七五%を超えている。処理された下水は最新鋭の膜処理により、再生水として散水や農業用水に使われている。

FIFA二〇二二年開催と投資

ここにきて大きな動きは、二〇二二年カタールがFIFAワールドカップ開催国になったことである。カタール政府はワールドカップに向け、道路、地下鉄、水インフラの投資に六百五十億ドルから千三百億ドルの予算計上中である。この大きなプロジェクトを巡って欧米のコンサルタントや巨大企業が鎬を削っているが、日本勢の動きは鈍い。現在、ドーハ・ウェスト下水処理場および再生水のパイプラインは、丸紅がフランスのデグラモンと組んで完工しているが、現地での評判は非常に高い。それに反しシンガポールが施工しているドーハ・ノース下水処理場は納期遅れで問題になっている。

カタール政府は下水汚泥の活用と下水処理水の活用を考えているが、これに関しては日本が世界に誇れる技術を有しているが、そのプレゼンスはほとんどない。海水淡水化の増設や下水処理場の増設、汚泥の資源化など、今度は日本が国を挙げてカタールの水問題に取り組み、彼らに恩返しをすべきであろう。

沖縄ファンクラブ特別賞

平田 大一 殿

あなたは「肝高の阿麻和利」の活劇を通して勝連町の青少年二千名をこえる育成に実のある貢献をされるとともに二〇〇〇年二月の初公演以来十万名をこえる観客・関係者に夢と志と感動を与えてきました。

これは家族の絆、地域社会おこしの絆を生み出しました。さらに二〇〇五年、二〇〇九年、二〇一〇年と三度に亘る東京公演は沖縄と東京の絆を生み出しました。

正に人は人により学び人により気付かされ人により成長することを実証いたしました。

この度沖縄県文化観光スポーツ部長に迎えられましたことは素晴らしいことです。心より拍手をおくります。沖縄ファンクラブはあなたの心を揺さぶる行動に敬意を表し、今後の更なる活躍を期待して発足十五周年を祝う「沖縄ファン集い」において特別賞を贈呈いたします。

平成二十三年六月十九日

沖縄ファンクラブ会長 矢野 弾

*

沖縄ファンクラブが十五周年を迎え六月十九日銀座スターホール九階、記念祝賀百二十余名が参加。祝賀会で特別賞を沖縄県庁文化観光スポーツ部長に就任した四十三才の平田部長に贈った。

〔表紙絵説明〕

阿蘇山

たざき ひろすけ
田崎 廣助

●田崎廣助（たざき・ひろすけ）略歴

- 一八九八年 福岡県生まれ。
- 一九一四年 坂本繁二郎に師事。
- 一九二四年 黒田敏子と結婚。
- 一九二六年 二科展に三点入選の快挙をなす。
- 一九三二年 フランス留学。サロン・ドートンヌ入選。
- 一九三六年 一水会創立。
- 一九五〇年 外輪山の阿蘇、文部省買上げ。
- 一九五二年 高原の浅間山風景、献上。
- 一九六一年 日本芸術院賞を受賞。
- 一九六七年 日本芸術院会員。
- 一九六八年 勳三等瑞宝章を受章。
- 一九七三年 ブラジル政府より最高名誉文化章を受章。
- 一九七五年 文化勲章受賞。日展顧問就任。
- 一九七八年 日本テレビ・美のシリーズ「噴煙の如く」放映される。
- 一九八四年 八十五歳没。